

1 はじめに

勤務している学校は昼夜間定時制で、生徒の出席率が低いため、前回の内容を全員が学習していることを前提に授業を進めることが難しい。その中でいかにして前回の授業内容を生徒に無理なく伝えるかを考えた結果、授業記録をデジタルカメラで撮影し、それをLINEのようなSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に投稿する方法を実践することにした。

2 デジタルカメラで記録する対象

生徒が欠席した場合、板書は他の生徒のノートを借りなくてはならないが、勤務校は単位制でありクラスメートが少ない困難がある。よって黒板を撮影し板書を電子データとして記録することにした。また、演示実験や生徒実験でどのような器具や薬品を用いたのかも記録している。

3 SNSへの投稿と位置づけ、他との比較

授業記録を生徒に見せる手段としてSNSを利用している。一昨年はFacebookのみだったが、昨年度からそれに加えLINEでも公開している。

Facebookでは公開設定で、LINEではタイムライン上で生徒に限定して公開している。

欠席者へのフォローを意図しているが、私自身が授業を振り返る一環として行っており、完全なサービスを生徒に保証していない。また、ネットで授業をしない観点から、SNSで生徒の質問に答えないことにしている。

ホームページやブログ作成サービスもあるが、現時点ではSNSが最も労力と成果のバランスが良い。画像を複数選択しての投稿が容易であること、動画のアップロードが容易にできること、投稿がスマートフォンで完結できることが利点である。一方、投稿が多くなると一覧性や検索性が悪くなるなど使い勝手が悪い面もある。

4 終わりに

学校で用意するICT機器は主に授業時間中のために使われる。私の実践は欠席者に対して、授業後に行う。その際、生徒が保有するIT機器を使うことになるので生徒のアクセスしやすい媒体に歩み寄りつつも、教員が無理なく続けられる容易さが共存することが望ましいと考えている。